

<第1部 自己紹介>

第1 弁護士坂和章平のプロフィール

・・・資料A・B

コラム集第1編第1章(15～24頁)(38歳～63歳)

事務所：〒530-0047

大阪市北区西天満3丁目4番6号

西天満コートビル3階

坂和総合法律事務所：Tel. 06-6364-5871

Fax. 06-6364-5820

1. ホームページ

<http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp>

1949年1月 愛媛県松山市に生まれる

1971年3月 大阪大学法学部卒業

1972年4月 司法修習生(26期)

1974年4月 弁護士登録

(大阪弁護士会)

1979年7月 坂和章平法律事務所開設

(後 坂和総合法律事務所に改称) 現在に至る

2. 受賞

2001年5月 日本都市計画学会「石川賞」

日本不動産学会「実務著作賞」

3. 坂和章平の出版物(1985～2017年)

・・・資料1

(コラム集第1編第2章第1節(25～260頁))

(1) 都市問題に関する著書

(2) コラム集等

(3) SHOW-HEYシネマルーム1～42

4. まちづくり事件についての主な判決

・阿倍野再開発訴訟

・津山再開発訴訟

第2 中国人留学生支援・交流

2000年から開始

第3 中国旅行

コラム集第3編第2章(323～381頁)

1. 香港旅行

・・・1997(平成9)年6月13日～16日

2. 中国(大連・旅順・瀋陽)旅行記

・・・2000(平成12)年8月10日～14日

3. 中国(西安・敦煌)旅行記

・・・2001(平成13)年8月9日～14日

4. 中国(北京)旅行記

・・・2003(平成15)年11月1日～4日

5. 杭州、紹興、烏鎮旅行記

・・・2004(平成16)年3月31日～4月3日

6. 桂林、深せん、広州旅行記

・・・2004(平成16)年6月10日～13日

7. 西双版纳(シーサンパンナ)、昆明、麗江、大理「雲南省大周遊8日間」旅行記

・・・2004(平成16)年11月28日～12月5日

8. 台湾(台北・高雄・台南・日月潭「台湾4日間」)旅行記

・・・2005(平成17)年3月13日～3月16日

9. 中国(曲阜・泰山・済南・青島「中国5日間」)旅行記

・・・2005(平成17)年10月20日～10月24日

10. 中国(上海・杭州・烏鎮・無錫・鎮江・揚州・蘇州・周庄旅行「中国5日間」)旅行記

・・・(2006(平成18)年3月16日～3月20日)

11. 中国(北京)旅行記

・・・(2007(平成19)年10月7日～10月11日)

— 北京電影学院特別講義の旅 —

12. 中国(上海)旅行記

・・・(2008(平成20)年8月22日～8月24日)

13. 北京・上海旅行記

・・・(2009(平成21)年3月24日～3月27日)

14. 上海旅行記

・・・(2009(平成21)年8月17日～8月20日)

15. 上海旅行記

・・・(2009(平成21)年9月17日～9月20日)

16. 厦門旅行記

・・・(2009(平成21)年11月6日～11月9日)

17. 大連・威海・青島旅行記

・・・2010(平成22)年3月13日～3月18日

18. 上海旅行記

・・・(2011(平成23)年11月3日～11月6日)

19. 上海・合肥・南京・上海旅行記

・・・(2012(平成24)年8月16日～8月24日)

20. 台湾旅行記

・・・(2014(平成26)年8月17日～8月21日)

21. 北京旅行記

・・・(2015(平成27)年6月28日～6月30日)

2015年11月 直腸ガン手術以降しばらく中断

第4 中国語の勉強

・中国語検定4級合格(2011年12月)

・中国語検定3級合格(2011年12月)

・中国語の歌から勉強

『中国語で歌おう! 決定版 テレサ・テン編』(アルク刊)

・中国語検定2級チャレンジ(2018年11月)

今後もチャレンジ継続!

第5 中国の大学での講義

1. 2007年10月10日北京電影学院

「坂和的中国電影論」

2. 2009年11月9日厦門(アモイ)大学

「日本の『景観法』と重要判例について」

<第2部 坂和的中国電影論>

第1 坂和と映画

1. 自己紹介

- ①1949(昭和24)年 愛媛県松山市生まれ(団塊世代)、②中・高一貫受験 男子校、③学生運動、
- ④司法試験、⑤公害訴訟(10年)、⑥都市再開発・まちづくり(30年間)、⑦都市法政策 出版・講義、
- ⑧映画評論、⑨旅行記(中国へ約20回)

2. 私と映画

- (1) 小学時代(1955~61年)
東映チャンバラ映画、『にあんちゃん』(59年)
- (2) 中学・高校時代(1961~67年)
 - ①3本立て55円(洋画+日活)、
 - ②学校推薦(『ベン・ハー』など)、③試写会時々
- (3) 大学時代(1967~71年)
 - ①時々、名画座系(3本立て150円?)
 - ②日活ロマンポルノ
- (4) 司法修習生(1972~74年)
—— 深夜映画+ビデオ数台(年末年始)
- (5) 超多忙時代(1974年からずっと)
—— 深夜映画+ビデオ数台(年末年始)
- (6) 自社ビル移転、ホームページ開設(2000~17年)
 - ①映画評論執筆開始—試写室通い
 - ②年間多い時は300本、今は年間約200本
『シネマ1~42』出版
- (7) 映画検定——キネマ旬報社・キネマ旬報映画総合研究所主催
 - ・『「映画検定」公式テキストブック』、『「映画検定」公式問題集』
 - ・4級合格(06年7月)、3級合格(07年1月)

3. 坂和的映画論

- (1) なぜ映画が面白いのか?
 - ①人間の本性に迫る、②人生の縮図、③知らないことを体験、④歴史や恋愛の勉強、⑤夢と希望、元気の素
- (2) なぜ映画評論を書くか
 - ①書かないと忘れる、②書くことによって感動を記録、
 - ③他者との議論のネタ、④読者にも夢と希望と元気を与える
- (3) 何が好きか?
 - ①人それぞれ、②必ず好きなジャンルあり
- (4) 映画評論の何が面白いのか?
 - ①映画の話題は老若男女に共通
 - ②人間の本音に早く迫れる。本性が早く見れる
 - ③異なる意見、見方、感性を知る
- (5) こだわりがわかる!
 - ①私のこだわりは? ②あなたのこだわりは?
 - ③面白い人がたくさん・・・

4. 私の映画評論の特徴(ユニーク性)

- (1) 弁護士の視点

①法廷のあり方、②各種の法律上のテーマ、

③その他(危機管理のシステム)

- (2) 都市法政策の講義、都市問題の実践からみる視点

①都市・住宅政策、②公害

- (3) 歴史大好き人間の視点

中国、韓国、ヨーロッパ中世

- (4) 文学大好き

シェイクスピア

- (5) 戦争映画検討の視点

- (6) 日本人論追及の視点(西欧や中国との対比)

- (7) 恋愛大好き、ピュアな少年の視点(?)

- (8) エロおやじの視点

- (9) 時事問題検討の視点

5. 新聞連載の映画評論・・・資料2-1、2

- (1) 産経新聞『That's なにわのエンタメ』(03年10月18日~07年6月15日、月1回、全34回)

コラム集第1編第3章(106~124頁)

- (2) 大阪日日新聞『弁護士 坂和章平のLAW DE SHOW』(07年11月9日~09年12月26日、週1回、全111回)

コラム集第1編第3章(125~237頁)

- (3) 週刊法律新聞(16年12月~現在も連載中)

- (4) 日本と中国『熱血弁護士坂和章平 中国映画を語る』(17年1月~現在も連載中)・・・資料9

第2 中国の近現代史

1. 清の時代、植民地支配の時代—『阿片戦争』(97年)

日清戦争(1894~95年)

日露戦争(1904~95年)

2. 孫文の時代—『宋家の三姉妹』(97年)

辛亥革命

1905年8月 「中国同盟会」発足

1912年1月1日 孫文を臨時大統領に選出

革命政府樹立

3. 日中戦争(抗日戦争)の時代(1928~45年)

4. 国共内紛時代(1945~49年)

5. 新中国建設(1949年~)

(1) 文化大革命—下放政策(1966~76年)

(2) 北京電影学院再開(1978年)

(3) 改革開放政策(1978年~)

(4) 天安門事件(1989年)

6. 歴代政権(権力の承継)

毛沢東(1949年~)→鄧小平(1978年~)

→江沢民(1989年~)→胡錦濤(2003年~)

→習近平(第1期2013年~第2期2018年~)

第3 中国電影100年

1. 中国映画の発祥

- 1905年 — ドキュメンタリー映画上映
それから100年「中国映画博物館」建設(2006年)
- 1931年9月17日(満州事変)～1945年8月15日(日本敗戦)まで
→ 反日・抗日映画のオンパレード
 - 1945年8月15日(日本敗戦)以降
→ 満州映画協会(満映)の崩壊と、東北電影の設立
・理事長 甘粕正彦
・大スター 李香蘭
 - 文化大革命(1967年～77年)と、北京電影学院の再開(1978年)、第1期生の活躍(1984年～)
 - 日中国交回復と中国映画の日本への導入
 - 日中国交回復(1972年9月29日)
田中角栄+周恩来
 - 第1回中国映画祭(1978年)
 - 中国映画祭(1988年)
— (株)徳間書店東光徳間事業部
→ 第5世代監督の映画紹介
 - 中国映画祭(1995年)
 - 中国映画祭(1997年)
 - 中国映画祭(2000年)
 - 中国映画の全貌(2004年)
 - 1997年香港返還、香港をめぐる情勢
 - 返還までの香港映画—香港は全く別、イギリス圏
→ 活発
 - 返還以降の香港映画→合流
 - 10年を経過した2007年の香港映画
→ 『インファナル・アフェア』3部作
 - 香港映画が果たした役割
— 1990年代初頭から名作続出
 - 『乱世備忘 僕らの雨傘運動』(16年)に注目!
 - 台湾をめぐる情勢
 - 国共対立(1945～49年)
 - 2・28事件(1947年2月28日)
— 『悲情城市』(89年)
→ 戦後中国から台湾に渡ってきた外省人である国民党が、戦前から台湾に住んでいた住民(本省人)たちの抗議運動に対して武力で弾圧した
 - 蒋介石台湾へ(1949年12月)
 - 国民党VS民衆党—2つの中国をどう考える?
台湾の独立問題
 - 2015年11月7日中国共産党習近平VS中華民国(台湾)馬英九総統の歴史的会談(1949年の分断後はじめて)(民進党は猛反発)
 - 2018年11月24日 台湾の蔡総統が民進党の首席を辞任
 - 台湾映画の果たした役割

第4 第5世代監督の果たした役割 (特に張藝謀と陳凱歌)

- 第5世代監督以前の監督たち
- 北京電影学院の果たした役割
- チャイニーズ・ニューウェーブの特徴と歴史的意義(1984年～)
 - 中国独自の文化、力強さ
張藝謀監督 — 『紅いコーリャン』『紅夢』『菊豆』
陳凱歌監督 — 『黄色い大地』
 - 中国の歴史(古代、近代史)
張藝謀監督 — 『活きる』
陳凱歌監督 — 『始皇帝暗殺』
『さらば、わが愛/霸王別姫』
- ハリウッド進出の功罪
張藝謀監督 — 『HERO(英雄)』(02年)
『LOVERS(十面埋伏)』(04年)
陳凱歌(チェン・カイコー) 監督
『黄色い大地』『大閱兵』『子供たちの王様』『さらば、わが愛/霸王別姫』『始皇帝暗殺』『キリング・ミー・ソフトリー』『北京ヴァイオリン』『PROMISE』『花の生涯～梅蘭芳～』『運命の子』『空海—KU—KAI—』
- 田壮壮(ティエン・チュアンチュアン) 監督の独自路線は?
『狩り場の掟』『盜馬賊』『青い罫』(93年)、『春の惑い』(02年)、『呉清源 極みの棋譜』(06年)
- 霍建起(フォ・ジェンチイ) 監督の独自路線は?
『山の郵便配達』(99年)、『故郷の香り』(03年)
『シヨンヤンの酒家』(03年)

第5 第6世代監督の果たしている役割

- 第6世代監督の意義 — 第5世代監督との違い
- 第6世代監督とその作品
 - 賈樟柯(ジャ・ジャンクー)
『一瞬の夢』『ブラットホーム』『青の稲妻』
『世界』『長江哀歌』『四川のうた』『罪の手ざわり』『山河ノスタルジア』
 - 張楊(チャン・ヤン)
『胡同(フートン)のひまわり』『グォさんの仮装大賞』
 - 張元(チャン・ユアン)
『小さな赤い花』『緑茶』『我愛你』
 - 婁燁(ロウ・イエ)
『ふたりの人魚』『パープル・バタフライ』『天安門、恋人たち』『スプリング・フィーバー』『パリ、ただよう花』
『二重生活』『ブラインド・マッサージ』
 - 王兵(ワン・ビン)
『鉄西区』『無言歌』『三姉妹～雲南の子』『収容病棟』
- 第6世代監督の映画祭受賞と検閲

第6 第6世代監督以降の監督

・趙薇 (ヴィッキー・チャオ) 監督

『So Young～過ぎ去りし青春に捧ぐ～ (致我們終將逝去的青春)』

・2018年大ヒット

『我不是葯神』 (文牧野 (ウエン・ムーイェ) 監督)

— この問題提起は?

『戦狼2』 (17年) (呉京 (ウー・ジン) 監督) の大ヒット!

— 中国版ランボーのアフリカにおける戦いぶりは?

・・・**資料3**

・2019年1月公開

『迫り来る嵐』 (刁亦男 (ディアオ・イーナン) 監督) に注目! — 『薄氷の殺人』に続くフィルム・ノワール=本格的サスペンス (第68回ベルリン国際映画祭・金熊賞受賞)

・・・**資料4**

第7 なぜ中国映画が好きか? (坂和的興味の視点)

1. 歴史大好き
2. きれいな女優大好き
3. 旅行大好き
4. 活劇モノ大好き

第8 中国映画にみる論点 (坂和的問題提起)

1. 文化大革命をどう考える?
2. 下放政策をどう考える?
3. 中国土地バブルをどう考える?
4. 都市問題一再開発をどう考える?
5. 民族問題をどう考える?
6. ドキュメンタリー映画をどう考える?
7. 日中戦争をどう考える?
8. メディアの管理体制と検閲をどう考える?
9. 張芸謀 (チャン・イーモウ) 監督たちのハリウッド進出と、逆にハリウッドの中国へのご機嫌取り (?) (=資金提供の狙いと市場狙い) をどう考える?
⇒ 『グレートウォール (長城)』 — マット・デイモンを起用
10. 『南京! 南京!』 (陸川 (ルー・チューアン) 監督) etc. 反日映画の大ヒットをどうみる?
11. 『ゼロ・グラビティ』『インデペンデンス・デイ リサージェンス』『オデッセイ』 — 中国人の美人パイロットを起用 — 市場規模でハリウッドを凌駕。興業はどうあるべきか?
12. 今は中国映画とハリウッドの競い合い (軍事、貿易の他)

・・・**資料8-11**

第9 坂和が観て書いた中国映画約300本

・・・**資料5-1~3**

1. 『シネマルーム5』66本
その目次 **『シネマ34』12~15頁**
2. 『シネマルーム17』83本

その目次 **『シネマ34』16~20頁**

3. 『シネマルーム34』90本

その目次 **『シネマ34』6~10頁**

4. 『シネマルーム34』以降

第10 中国映画のジャンル分け

1. 古代歴史モノ — 『始皇帝暗殺』『HERO (英雄)』『女帝 エンペラー』『三国志』
2. 近代歴史モノ — 『宋家の三姉妹』『活きる』『阿片戦争』
3. 戦争モノ — 『ヘブン・アンド・アース』『国姓爺合戦』『SEVEN SWORDS セブンソード (七剣)』
4. 冒険活劇モノ — 『レジェンド 三蔵法師の秘宝』『花都大戦 ツインズ・エフェクトII』
5. ドキュメンタリー映画
『延安の娘』『蟻の兵隊』『ココシリ』『三姉妹~雲南の子』『無言歌』
6. 『都市・住宅問題 — 『上海家族』『世界』
7. 恋愛感動作 — 『最後の恋, 初めての恋』『緑茶』『我愛你』
8. 人間ドラマ — 『山の郵便配達』『ジャスミンの花開く』『玲玲の電影日記』『単騎, 千里を走る。』『長江哀歌』
9. 企業モノ — 『CEO』
10. 学校モノ — 『子供たちの王様』『草ぶきの学校』『思い出の夏』
11. お葬式モノ — 『ハッピー・ヒューネラル』『涙女』
12. バイオリンもの — 『小さな中国のお針子』『北京ヴァイオリン』
13. 格闘技モノ — 『スピリット』
14. 裁判モノ — 『再生の朝に — ある裁判官の選択—』
15. これぞ中国映画! — 『幸せの絆』『キムチを売る女』『雲南の少女 ルオマの初恋』

第11 この映画、あの映画をどう見るか?

(坂和的検討の視点)

1. 第5世代監督の代表作
『紅いコーリャン』『活きる』『あの子を探して』『初恋のきた道』『至福のとき』『黄色い大地』『さらば、わが愛/霸王別姫』『始皇帝暗殺』『北京ヴァイオリン』『青い嵐』『呉清原 極みの棋譜』『山の郵便配達』『故郷の香り』『ジョンヤンの酒屋』など
2. 第6世代監督の代表作
『ココシリ』『長江哀歌』『胡同 (フートン) のひまわり』
3. 話題作
『孔雀 我が家の風景』『ジャスミンの花開く』『幸せの絆』『玲玲の電影日記』『小さな中国のお針子』『上海家族』など
4. 中国映画の代表作
『阿片戦争』『芙蓉鎮』『朱家の悲劇』『宋家の三姉妹』
5. 日本で大ヒットした中国映画
『初恋のきた道』『山の郵便配達』

<第3部 坂和の日中交流の楽しみ方>

第1 莫言さんノーベル文学賞おめでとう コラム集「巻頭特集」(1~7頁、12~14)

1. 乞う、ご期待！7月26日に中国人作家・莫言と坂和弁護士が対談！（事務所だより第17号 11年盛夏号）
2. 莫言文学のご紹介～『蛙鳴(あめい)』（11年5月、吉田富夫訳、中央公論新社）（事務所だより第17号 11年盛夏号）
3. 中国人作家・莫言との対談は？有馬温泉での温泉談義は？（11年7月26日～27日）（事務所だより第18号 12年新年号）
4. 莫言さん ノーベル文学賞受賞おめでとう！（事務所だより第20号13年新年号）

第2 莫言さんノーベル賞受賞までの毛丹青老師との共同作業あれこれ！ コラム集「巻頭特集」(8~11頁)

1. 蘇童座談会（08年4月2日）
2. 『取景中国』出版に向けて打ち合わせ開始
3. 『取景中国』出版 上海ブックフェア（09年8月18日）
4. 大学での対談・共同講演あれこれ
5. CCTVデビュー！（09年10月11日）
6. 定遠号プロジェクト（10年3月15日）

第3 近時の毛丹青老師と坂和の共同作業あれこれ！

1. 『知日』と『在日本』
2. 毛丹青先生の教え子たちとの交流
 - (1) 授業での講演（単発）
 - (2) 忘年会等の交流
 - (3) 李淵博くん（安徽省、合肥旅行・2012年8月）
 - ①『电影如歌 一个人的银幕笔记』の出版（2012年8月）
 - ②ビザ取得一坂和総合法律事務所勤務
 - ③『在日本』の立ち上げ — 淵博株式会社創設
 - (4) 孫晨俊くん（上海）
 - ・上海での人脈
 - ・就職後の活動 → 「ファインド・ジャパン」に就職
 - (5) 姜程源くん（威海） — 定遠号プロジェクト コラム集「巻頭特集」(8~11頁)
 - 2017年4月就職
3. NHK かんさい熱視線 「こちら“在日本”編集部 日本と中国 若者と作る未来」（2016年10月14日放送）
 - (1) 又吉直樹『火花』芥川賞受賞（2015年7月16日）
 - (2) 毛丹青『火花』の翻訳本を出版（人民文学出版社）（2017年6月）
 - (3) 又吉直樹と毛丹青の対談（『在日本 — エージェレス日式逆齡』2017年5月）
 - (4) 2017年6月27日放送 NHK クローズアップ現代「“火花” 中国に行く ～又吉直樹が見た“90后”～」
 - 若者との対話
4. 小玉（駅長たま）

淵博株主体で『ねこの駅長たま びんぼう電車をすくったねこ』（角川つばさ文庫）を出版。

2018年4月29日、和歌山電鐵貴志川線・貴志駅で猫の小玉と狐のキャラクター・阿狸がご対面！

小玉の生みの親である小嶋光信両備ホールディングス代表取締役会長と、阿狸の作者として中国で爆発的人気の徐瀚氏を、毛さんがコラボしたイベントにはバスに乗って50数名の留学生も参加。海外メディアの報道と彼らのSNSでその情報は世界中に！

第4 近時の毛丹青老師の翻訳本あれこれ

3人の女性の本 翻訳

- ・『音の記憶 技術と心をつなげる』 パナソニック役員・ジャズピアニスト 小川理子
- ・『キャスターという仕事』 NHK 「クローズアップ現代」の元キャスター 国谷裕子
- ・『魂の退社』 元朝日新聞編集委員 稲垣えみ子

第5 近時の日中友好イベントあれこれ

- ・2015年11月28日 大阪府日中友好協会 文化茶話会にて講演「坂和の日中交流の楽しみ方と坂和的中国電影論」
- ・2017年4月22日 関西日中関係学会総会にて講演「坂和の日中交流の楽しみ方と坂和的中国電影論」
- ・2017年7月12日 安徽省の政府関係者を駐大阪総領事館の副総領事らが迎えた「熱烈歓迎安徽省海外联谊会訪日代表団」に楊陽の紹介で参加。

- ・2017年11月22日 第121回華人経済・経営研究会にて講演「映画から見た中国社会の変貌と坂和的日中交流の楽しみ方」
- ・2018年11月20日 岡山で開催した第16回日中友好交流会議に参加した中国人民対外友好協会一行6名を大阪に迎えての、都島の太閤園（旧淀川邸）での夕食会に参加。
- ・2019年1月5日 中国留日同学総会の楊陽の紹介で、江西省帰国華僑連合会（僑連）張志明首席ご一行約10名を迎えて都島の自宅で食事会を開催。

第6 2007（平成19）年10月10日 北京電影学院での特別講義

コラム集第3編第2章8（343、344頁）

1. ついに北京電影学院での特別講義が実現した！そのきっかけは、事務所だより第9号の交遊録に登場した、北京電影学院客員教授の肩書をもつ古澤敏文氏と意気投合したこと。北京電影学院は、中国第5世代監督の張藝謀（チャン・イーモウ）や陳凱歌（チェン・カイコー）らを輩出した世界でも珍しい国立の総合映画大学の最高峰。そこで学ぶ約50名の院生を前に、2時間半の授業で私が熱く語ったのは「坂和的中国電影論」。
2. 10月9日の打合せと昼食会そして学院内の見学を経て、翌10日、学院内には「日本著名電影評論家坂和章平談 中国電影在日本」と書かれた私の顔写真入りの大きなポスターが（写真①）。うれし恥ずかしの気持ちいっぱい45分前に教室に入ったところ、既に最前列の席をキープする約10名の院生がいた。配布した授業のネタは中国語版レジメ4枚だけだが、私の手元には膨大な資料が。ちなみに、当日は朝4時半に起きて、ホテルの部屋で講義メモをバッチリ作成。
3. 授業終了後は『SHOW-HEYシネマルーム』の中国語版はないのか？をはじめとする質問が次々と出され、私の講義に対する院生たちの興味と関心の強さがありありと！そして今や、この講義録を含む『坂和的中国電影大観』パート2となる『シネマルーム17』の出版計画は確定したうえ、いよいよ中国人民13億人をターゲットにした中国語版による『坂和的中国電影大観』の企画が現実的テーマに。
4. なお、10月9日の古澤氏との打合せの際、喫茶室で出会ったのが『呉清源 極みの棋譜』（06年）の田壮壮（ティエン・チュアンチュアン）監督。そこで、私たちは厚かましくも自己紹介をさせていただいたうえ、ツーショットの写真を（写真②）。こりゃ一生の記念写真に……。そして、大学を出る時は学長たちと記念写真を（写真③）。また、入口では再度記念写真を（写真④）。

第7 2015（平成27）年6月29日

北京電影学院“实验电影”学院賞の授賞式・・・資料6-1~4

第8 日中国交正常化45周年・・・資料7-1・2

1974年9月 田中角栄と周恩来が握手。「日中共同声明」を発表
舞劇『朱鷺』日本再上陸（『人民中国』2017年10月号）

第9 近時（2015～2019年）の日中映画界の話題

1. 「新人監督に商業主義の壁」「中韓映画界、ベテランに投資集中」・・・資料8-1
2. 「ハリウッド大作 濃い『中国色』」「世界2位の巨大映画市場 魅力」・・・資料8-2
3. 「大阪ロケを『おもてなし』」「海外大作映画 30年ぶり撮影」・・・資料8-3
4. 「中国、『等身大の日本』に関心」「訪日客増え 社会を目の当たり」・・・資料8-4
5. 「ソニー、映画で万達と連携」「中国の商品、作品内でPR」・・・資料8-5
6. 「中国企業 ハリウッド支配」「映画・TV制作会社の買収進む」・・・資料8-6
7. 「邦画ノウハウ中国へ」「リメイクや合作続々」・・・資料8-7
8. 「中国版ランボー愛国的ヒット」「政府、祖国称賛ドラマを促進」・・・資料8-8
9. 「毛沢東、『寅さん』など極秘鑑賞」「『日本の軍国主義 復活ない』」・・・資料8-9
10. 「中国当局、ネット世論厳戒」「『違法情報』削減2倍」・・・資料8-10
11. 「覇権 米中攻防」「ハリウッド 中国が主役」・・・資料8-11
12. 「中国映画・TV界 1900億円脱税」「有名俳優ら、自首相次ぐ」・・・資料8-12

第10 『日本と中国』にて2017年1月から「中国映画を語る」を連載開始・・・資料9

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 黄色い大地（1984年） | 6. 再生の朝に—ある裁判官の選択—（2009年） |
| 2. 生きる（1994年） | 7. イノセントワールド—天下無賊—（2004年） |
| 3. 山の郵便配達（1999年） | 8. 国姓爺合戦（2001年） |
| 4. 再見～また逢う日まで～（2001年） | 9. 玲玲の電影日記（2004年） |
| 5. 芙蓉鎮（1987年） | 10. 涙女（2002年） |
- など